

## 5) 精神障害者就労準備チェック表

資料出所 神奈川県労働部職業能力評価専門部会

（小山武衛士、穂坂一枝「精神障害者就労準備チェック表について」  
1993年10月 日本職業リハビリテーション学会第21回配布資料  
より転載）



# 5) 精神障害者就労準備チェック表

氏名 \_\_\_\_\_ (男・女) : 生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日生 ( \_\_\_\_\_ 歳)  
 記入 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 : 記入機関 \_\_\_\_\_ : 記入者 \_\_\_\_\_

大項目	中項目	小項目	評価基準	備考
I 症 状 面	1 症 状	(1) 病識	a. 病識がある b. だいたい持っている c. ほとんど持っていない	
		(2) 服薬管理	a. 管理できている b. ときどき忘れる c. 不十分である	
		(3) 症状の安定	a. 安定している b. ほぼ安定している c. 不安定である	
	等	(4) 自己能力の理解	a. 理解している b. だいたい理解している c. 過大または過少評価している	
		(5) 動作・振舞い	a. 動きはスムーズである b. やや緩慢である c. 緩慢でぎこちない	
		(6) 表情	a. かたさがなく自然である b. やや不自然である c. 表情が乏しい	
II 社 会 生 活 面	2 日 常 生 活	(7) 身だしなみ	a. 適切である b. やや乱れがちである c. 乱れがちで無頓着である	
		(8) 食事	a. 適切である b. いくぶん不適切である c. 不適切である	
	活	(9) 整理整頓	a. できている b. やや不十分である c. ほとんどできない	
		(10) 生活のリズム	a. リズムを保っている b. 時々ルーズになる c. 昼夜の生活が乱れがちである	

II 社 会 生 活 面	3 社 会 生 活	(11) 金銭管理	a. 管理できる b. ややルーズである c. ルーズである	
		(12) 公共機関の利用	a. 普通にできる b. 何とかいくつかが利用できる c. ほとんど利用できない	
		(13) 規律等の順守	a. 決められたことや約束を守る b. 時々守れないときがある c. ルーズで言動が一致しない	
	生 活 面	4 対 人 関 係	(14) 社会への関心	a. 周囲のことに関心を持っている b. やや関心を持っている c. 閉じこもりがちで関心をもたない
(15) あいさつ			a. 自分からする b. 時々自分からする c. ほとんど自分からしない	
(16) 応対		a. 相手に合わせて応対する b. 時々その場にあわない応対をする c. 場違いな応対をする		
(17) 意思表示		a. 相手に自分の意思を伝えられる b. 催促されれば言える c. ほとんど自分からは言えない		
(18) 協調性		a. 協調できる b. 何とか協調できる c. 自分勝手に時々トラブルがある		
III 就 労 意 欲 面	5 就 労 意 欲	(19) 働く目的	a. 働く目的を持っている b. 目的はあるがあいまいである c. 目的を持っていない	
		(20) 働く意欲	a. 働く意欲がある b. 不十分だがやる気がある c. あまり働く気がない	
		(21) 働くエネルギー	a. 自分で行動できる b. 後押しされれば行動できる c. 口先だけで行動できない	

職業能力評価専門部会 (神奈川県労働部)

(045-312-1121 神奈川県職業相談センター)  
 (障害者職業相談室)

Ⅲ 就 業 能 力  労 働 面 態 度	6  作 業  能 力	(22) 指示の理解	a. 1回の説明でわかる b. 2、3回繰り返せばわかる c. 何回も説明が必要である	
		(23) 作業の判断	a. 適切に判断できる b. やや遅いができる c. 迷いが多く、遅い	
		(24) 作業の正確さ	a. 正確である b. 時々正確さにかける c. 粗雑である	
	7  作 業  態 度	7  作 業  態 度	(25) 作業の量	a. ほぼ普通に近い(3/4以上) b. だいたい半分以上(1/2~3/4) c. あまりこなせない(1/2以下)
			(26) 積極性	a. 自分から取り組む b. 時には自分から取り組む c. 自分から取り組むことができない
			(27) 集中力	a. 作業に集中できる b. ときどき注意散漫になる c. 集中できない
	8  支 援 面 態 勢	8  支 援 面 態 勢	(28) 持続力	a. 勤務時間内は続けられる b. 半日ぐらいは続けられる c. 2、3時間位しか続けられない
			(29) 指示の順守	a. 指示を守れる b. 時々指示を守れない c. 指示を守らず、自分勝手が多い
			(30) 生活の基盤	a. 生活にゆとりがあり安定している b. ゆとりはないが何とかやれる c. 生活にゆとりがなく不安定である
9  支 援 面 態 勢	9  支 援 面 態 勢	(31) 医療の援助	a. いつでも必要な時連携ができる b. 何とか連携できる c. 連携がうまくとれない	
		(32) 家庭の援助	a. 頼りになる人がいる b. 何とか支えられる c. あまりあてにできない	
		(33) 地域の援助	a. いつでも相談できる人がいる b. 何とか相談できる人がいる c. 相談できる人はほとんどいない	

チェック結果記録表

a = 5点、b = 3点、c = 1点

大項目	中項目	小項目	評価	備 考
Ⅰ 症 状 面	1. 症状等	(1) 病 識 (2) 服薬管理 (3) 症状の安定 (4) 自己能力の理解 (5) 動作・振舞い (6) 表 情	a b c a b c a b c a b c a b c a b c	(aの数) × 5 = ( ) (bの数) × 3 = ( ) (cの数) × 1 = ( ) 計 ( ) ÷ 30 = %
		Ⅱ 社 会 生 活 面	2. 日常生活  3. 社会生活	(7) 身だしなみ (8) 食 事 (9) 整理整頓 (10) 生活のリズム
Ⅲ 就 業 面	4. 対人関係			(11) 金銭管理 (12) 公共機関の利用 (13) 規律等の順守 (14) 社会への関心
		Ⅳ 支 援 面	5. 就労意欲	(15) 挨拶 (16) 応 対 (17) 意思表示 (18) 協調性
Ⅴ 支 援 面	6. 作業能力			(19) 働く目的 (20) 働く意欲 (21) 働くエネルギー
		Ⅵ 支 援 面	7. 作業態度	(22) 指示の理解 (23) 作業の判断 (24) 作業の正確さ (25) 作業の量
Ⅶ 支 援 面	8. 支援態勢			(26) 積極性 (27) 集中力 (28) 持続力 (29) 指示の順守
		Ⅷ 支 援 面	9. 支援態勢	(30) 生活の基盤 (31) 医療の援助 (32) 家庭の援助 (33) 地域の援助
合 計				( ) ÷ 165 = %
特 記 事 項				

## 6) 作業所利用者（精神障害）の就労準備状況チェック事項

資料出所

篠田峯子 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科（厚生教官）

「作業所利用者の就労準備状況調査の報告」

1993年10月 日本職業リハビリテーション学会第21回大会説明資料



I. 背景

1. 氏名 性別 年齢

2. 居住形態：単身（独身）、家族と同居、援護寮、福祉ホーム、施設、病院、会社の寮、その他

3. 経済基盤：本人の給与、年金、家族の援助、生活保護、その他

4. 医療歴：初診年月、通算入院期間、現在の通院状況（頻度など）

5. 就労経験：一般就労、通院患者リハ事業利用、入院中の外勤作業、その他

6. 作業所の利用状況：利用回数（初回、再利用）、利用期間（今回の期間）

7. 本人が過去3ヶ月に主として従事していた作業種目

8. その作業への従事期間（初めてその種目を開始した時期からの大体の期間）

9. 求職活動の状況

① 目標とする就労形態：元職復帰、一般就労、その他

② 現在の求職活動実施状況：元職場と調整中、制度利用の方向で探している  
職業安定所、職業センター、広告、情報誌、その他を利用  
して探している。  
特に行っていない

## 社会生活能力

1. 整容・身だしなみ  
③特に問題ない、②ときどき乱れる、  
①不潔であったり、奇異な服装であることが多い、一部常に乱れている。
2. 遅刻・早退  
③特に問題ない、②ときどき（2割程度）乱れる、①守れない（2割以上）
3. 作業所のルール（挨拶、休み遅刻の連絡、喫煙時間・休憩時間の取り方など）  
③特に問題ない、②守れない事がある（2割程度）、①ほとんど守れない
4. 工作上必要な対人関係（例えば職員、外来者への対応、挨拶、電話の応答など）  
③特に問題ない、②適切に出来ないことがある、①適切に出来ない
5. 仕事と直接関係していない対人関係  
③適切に出来る、②仲間、なれた場所、誘いかけ等があれば出来る  
①適切に保てない（出来ない場合と、過剰だったり、ピントがずれるなど）
6. 服薬管理  
③自立して継続できる、②時に中断することがある、①自己管理できない
7. 仕事をしてゆく上で支障となる症状の有無  
③見られない、②目立たない、①目立つ

## 職業生活能力

8. 出勤態度（出勤予定日数 / W \*原則として週3日以上）  
③特に問題ない、②8割程度出勤できる、①8割以下しか出勤できない
9. 作業速度  
③特に問題ない、②遅いが安定している、①非常に遅いまたは速さにムラがある
10. 作業の持続性  
③持続性がある安定している、②持続性が安定しない、①持続しない
11. 問題解決能力  
③日常的なことは自分で判断できる。その他の事は必要時に適切な人に相談できる  
②日常的なことは遂行できるが、問題が生じると自分から援助を求められない  
①問題発見が出来ない、あるいは勝手な処理をする、あるいは一々毎回尋ねるなど
12. 学習能力  
③問題ない（新しい課題が実用的な期間、回数で学習できる）  
②期間、回数はかかるが学習できる、①簡単な課題のみ学習できるが、実用性は低い



#### IV. 性格・行動特性

1. 明るい、朗らか、大人しい、柔軟、義理堅い、礼儀正しい、まじめ

素直、やさしい、きれい好き、慎重、とっつきやすい、頑張りや、けなげ

感情表現が自然

2. 引っ込み思案、消極的、人にとけ込めない、愛想がない、自信欠如

劣等感を持ちやすい、臆病、気が小さい、融通が利かない、生真面目

権威主義、権力に弱い、完全主義、依存的、関心の幅が狭い、環境変化に弱い

3. 短気、おこりっぽい、気まぐれ、ひがみっぽい、わがまま、自己中心的、

しつこい、くどい、些細なことを気にする、プライドが高い、ずぼら、いいかげん

無遠慮、厚かましい、気むづかしい、頑固・妥協しない



## 7) 脳損傷者の職業生活状況の実態調査

資料出所

障害者職業総合センター

田谷勝夫



## 7) 脳損傷者の職業生活状況の実態調査 (抜粋)

### 《医療面》 (つづき)

18. 運動機能障害:  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) Br Stago  
 障害部位  (1.手指 2.上肢 3.下肢 4.体幹 5.顔面)  
 障害側  (1.右 2.左 3.両側 4.その他)  
 筋力低下  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 震戦  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)
19. 体性感覚機能障害:  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 表在感覚  ( )  
 障害部位  (1.手指 2.上肢 3.下肢 4.体幹 5.顔面)  
 障害側  (1.右 2.左 3.両側 4.その他)  
 しびれ  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 深部感覚  ( )  
 障害部位  (1.手指 2.上肢 3.下肢 4.体幹 5.顔面)  
 障害側  (1.右 2.左 3.両側 4.その他)
20. 視覚機能障害:  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 視力  (右 左 )  
 視野障害  ( )
21. 聴覚機能障害:  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 聴力  ( )
22. 精神機能障害:  (1.有り 2.無し) ■  
 意識障害  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) (JCS= )  
 注意障害  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) ( )  
 知能低下  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) (HASE-R= 点、 WAIS-R:VIQ= , PIQ= )  
 性格変化  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) ( )  
 感情失禁  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) ( )  
 病識欠如  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度) ( )
23. 高次脳機能障害:  (0.無し 1.有り)  
 失語症  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 (1.全 2. Broca 3. Wernicke 4. 失名詞 5. 伝導 6. 超皮質性運動 7. 超皮質性感覚 8. 分類不能)  
 失行症  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 (1. 肢節運動 2. 観念運動 3. 観念 4. 構成 5. 着衣)  
 失認症  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 (10. 視覚失認--11. 視覚物体 12. 相貌 13. 同時 14. 色彩 15. 視空間 )  
 (20. 聴覚失認--21. )  
 (30. 触覚失認--31. )  
 記憶障害  (0.無し 1.軽度 2.中度 3.重度)  
 (1. 前向性 2. 逆向性 3. 全健忘)
24. ADL:  (1.自立 2.監視 3.部分介助 4.全介助) BARTEL INDEX ( 点)  
 食事  (1.自立 2.監視 3.部分介助 4.全介助)  
 整容  (1.自立 2.監視 3.部分介助 4.全介助)  
 更衣  (1.自立 2.監視 3.部分介助 4.全介助)  
 排泄  (1.自立 2.監視 3.部分介助 4.全介助)
25. 移動能力:  (0.問題なし 1.問題あり)  
 寝返り  (1.可能 2.つかまれば可能 3.不能)  
 起き上がり  (1.可能 2.つかまれば可能 3.不能)  
 座位保持  (1.可能 2.つかまれば可能 3.不能) 移乗動作 (0.自立 1.監視 2.部分介助 3.介助)  
 立位保持  (1.可能 2.つかまれば可能 3.不能) 階段昇降 (0.自立 1.監視 2.部分介助 3.介助)  
 歩行  (1.可能 2.つかまれば可能 3.不能) 独歩レベル (0.郊外 1.屋外 2.屋内 3.居室内)
26. 補装具:  (0.非使用 1.使用)、 使用装具名 ( )



## 8) 高次脳機能障害・作業療法関連チェック事項 (表1～3)

資料出所

伊豆韮山温泉病院

種村留美

日本障害者雇用促進協会

「第一回職業リハビリテーション

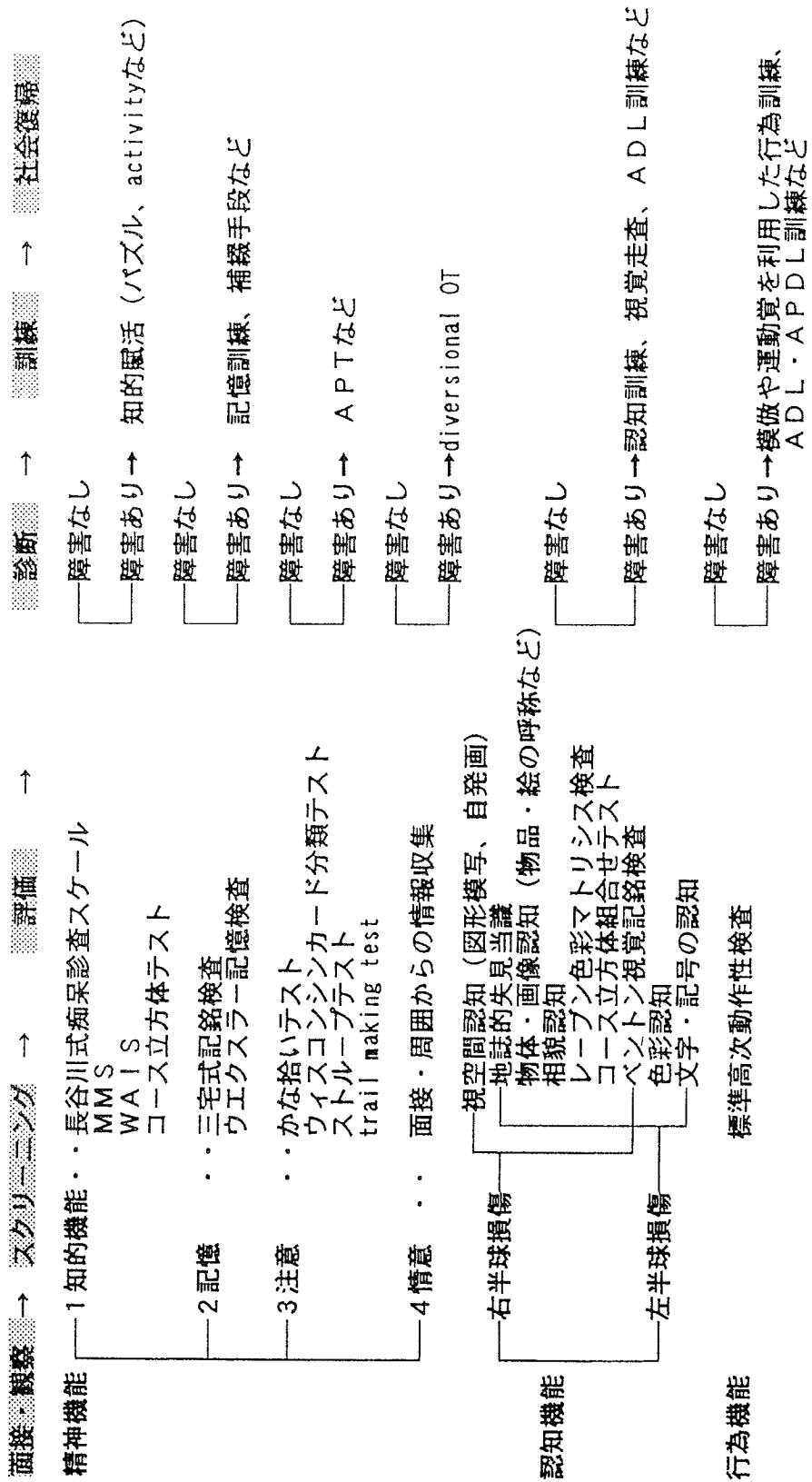
研究発表会報告書」(1993年11月)

(ワークショップI)





表1 高次脳機能障害に対するOT訓練の流れ



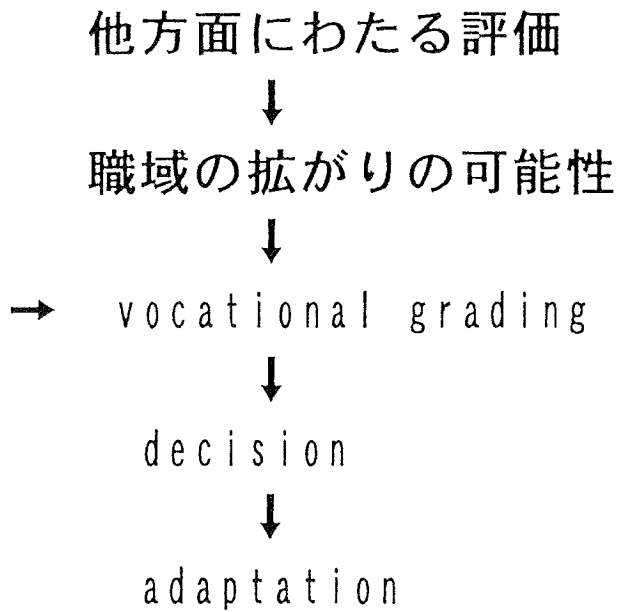
## 前頭葉症状

表2

- 1) 発動性障害 (無為・無欲・無関心)
- 2) 注意力障害 (持続性・分配性・選択性・転換性)
- 3) 記憶障害
- 4) 実行機能障害
- 5) 道具の使用行動など

表3 高次脳機能障害者の職業適性

失語  
失行  
失認  
記憶障害  
注意障害  
人格障害  
前頭葉障害





## 9) 脳損傷後の認知機能障害

資料出所 George P. Prigatano ほか著、八田武志ほか訳  
「脳損傷のリハビリテーション」医歯薬出版 1988



### 1) 注意と集中力の障害

- ・注意維持困難，疲れやすい。
- ・選択的注意障害と走査障害。
- ・ものごとの前後への注意移動の障害。
- ・グループでのコミュニケーション場面で“とり残される”。

### 2) 目的志向的活動の始動と計画の障害

- ・抽象的態度の障害，患者は情報の要点を見逃したり，言葉どおりに情報を抽出してしまう。
- ・ある行為を始める直前になって行為を抑制したり，行為を中断すべき時，中断できないというようなことに問題がある，衝動的行為や保続的反応を生じやすい。
- ・行為の開始，始動に時間がかかる。
- ・問題解決状況で，どこから始めるべきかに混乱する，そのため，とんでもないやり方で取り組もうとすることが多い。
- ・順序づけや情報の系列化が困難。
- ・いつ，どこで，どのように他人の助けを求めるべきかがわからない。
- ・失敗や成功から学ぶところが少ない。

### 3) 知覚と判断の障害

- ・他人の行為や意図を誤解することが多い。
- ・一時に多くの情報があると混乱する。
- ・言葉でのコミュニケーションが社会通念上不適切なものとなることが多い。
- ・脳損傷後の自分に残存している能力や障害についての非現実的な評価がある。

### 4) 学習と記憶の障害

- ・丸暗記能力が乏しい。
- ・短期記憶が，例えば言語的なもの，非言語的なものというように材料別に障害される。
- ・特に教科や仕事の技能に関係するような，“ぜひ覚えねばならない”情報の処理や構成に困難をともなう。
- ・健忘が生じることがある。IQ以下の記憶力を示すことがある。

### 5) 情報処理速度の障害

- ・反応時間の極端な遅延。
- ・話す，書く，作業するなど精神運動活動の遅延化。

### 6) コミュニケーション（失語，非失語両面での）障害

- ・失名詞。
- ・語の検索の不適切さ。
- ・思考，失語の脱線。
- ・多弁。
- ・特定の単語，句の頻繁な使用。
- ・卑わい語の使用など語選択での抑制のなさの増大。





## 10) 脳損傷後に生じるパーソナリティ障害

資料出所 George P. Prigatano ほか著、八田武志ほか訳  
「脳損傷のリハビリテーション」医歯薬出版 1988



## 脳損傷後に生じるパーソナリティ障害

---

### 1) 典型的な反応性障害

- ・不安
- ・抑うつ
- ・過敏性
- ・他者への不信
- ・絶望感
- ・無気力（すなわち、依存的態度）
- ・怒り
- ・社会的引き込みり
- ・恐怖症

### 2) 神経心理学的基礎を持つ典型的な問題

- ・衝動性
- ・社会的にみて不適切な言動
- ・情緒不安定（欲求不満耐性の欠如を含む）
- ・興奮
- ・偏執症
- ・障害（または障害の重さ）に対する無関心
- ・子どもじみた行動（軽薄であったり、他者への配慮の欠如）
- ・他者の意向や行動に対する誤解
- ・動機づけの明らかな欠如
- ・覚醒低下

### 3) 典型的な性格的行動様式

- ・強迫的なまたは過度に規則性を持つ行動
  - ・過度に勤勉な態度
  - ・適応性と親密性
  - ・社会的錯誤行為（精神病的傾向）
  - ・人間関係での満足を維持させようとする欲求
  - ・家族の支持で勇気づけられたり落胆したりすること
  - ・不信感
  - ・他者や治療者から「十分な」援助を受けていないと感じること
  - ・自己洞察や個人的な課題を回避すること
  - ・人をおどかさずにおもしろがること
  - ・依存的役割を享受すること
  - ・挑戦的態度（できるものであればどんどん進めて治療しようとする治療者に対して挑戦的になること）
-



## 11) 脳障害者に適用可能な現行心理テスト一覧表

資料出所

小山充道「脳障害者の心理臨床

—病める心のリハビリテーション—」

学苑社 1985



脳障害者に適用可能な現行心理テスト一覧表

知能テスト	重度知能障害のスクリーニング	長谷川式簡易知的機能検査スケール		記憶全般 視覚記録 聴覚記録	ウェックスラー記憶尺度 (WMS)	
	一定水準以下の知能のスクリーニング	脳研式標準知能検査				
	知的機能の質的分析	WAIS成人知能診断検査			ベントン視覚記録検査	
	一般知能測定	田中・びねー式知能検査				
		実際の個別的知能測定法			三宅式記録検査	
構成能力	コース立方体組み合わせテスト					
性格	質問紙法		一般性格特性	Y-G (矢田部・ギルフォード) 性格検査		
			人格的・社会的不適応の種別と程度	MMPI (ミネソタ多面的人格目録)		
			顕在性不安の程度	MAS (顕在性不安検査)		
			心身両面にわたる自覚症状	CMI (コーネル・メディカル・インデックス)		
テスト法	言語障害を伴う	描画法	HTP(家屋・樹木・人物) 診断法	言語障害を伴わない	ロールシャッハ・テスト	
			バウムテスト			
		作業式	KTSA(カーン・シンボルテスト)		TAT (絵画統覚検査)	
		記述式	P-Fスタディ(絵画欲求不満テスト)			
			SCT (文章完成法テスト)			
特殊テスト	巣症状 (失語・失認・失行)		失認・失行テスト			
			標準失語症検査 (SLTA)			
	感覚統合能力		南カリフォルニア感覚統合能力検査 (SCSIT)			
	視覚・運動ゲシュタルト		ベンダー・ゲシュタルトテスト (BGT)			
職業適性		労働省編一般職業適性検査				

